

聖書日課 『からし種』 2022.8.14-8.21

<p>8月14日 (日) 創世記 21章</p>	<p>「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子供の泣き声を聞かれた。立って行って、あの子を抱き上げ、お前の腕でしっかり抱き締めてやりなさい」(17-18節)。今日もどれほど多くの社会的立場の弱い人びとが荒野に追いやられていることか。主はその涙を受けとめ、生きる励ましを届けてくださる方。この主を共に礼拝する者とされて。</p>
<p>15日 (月) 創世記 22章</p>	<p>「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて…彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい」(2節)。イサクは「愛する独り子」であり、主の祝福の約束そのもの。そのイサクを「焼き尽くせ！」とはどういうことなのか。主は「与える方」であると同時に「奪う方」。しかし主は最後まで「愛の神」であることを聖書は証言する。そのことを今日、信じることができるか？</p>
<p>16日 (火) 創世記 23章</p>	<p>「サラは、カナン地方のキルヤト・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは、サラのために胸を打ち、嘆き悲しんだ」(2節)。アブラハムと共に主を信じて歩む旅に招かれ、労苦を分かち合ったサラ。互いの人間的弱さゆえに何度も失敗を重ねながら、主の祝福の約束を握りしめて歩む信仰を学んでいく。そのサラを失い、天を仰ぐアブラハムの涙を想う。</p>
<p>17日 (水) 創世記 24章</p>	<p>「彼はひざまずいて主を伏し拝み、『…主の慈しみとまことはわたしの主人を離れず、主はわたしの旅路を導き、主人の一族の家にたどりつかせてくださいました』と祈った」(26-27節)。イサクの妻となる女性を探しに旅に出たアブラハムの僕の「祈りの姿」に教えられる。彼は旅の途中で何度祈ったことか。主を求める祈りが、彼の旅を最後まで導いたのである。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.8.14-8.21

<p>18日 (木) 創世記 25章</p>	<p>「アブラハムの生涯は百七十五年であった」(7節)、「息子イサクとイシュマエルは、マクペラの洞穴に彼を葬った」(9節)。21章で母ハガルと共に荒れ野に追放されたイシュマエルが、父アブラハムの死に際してイサクと共に立っている。大変な苦闘を重ね、葛藤を抱えながら歩んできたであろうイシュマエルの、その生涯に伴い歩まれた主の慈しみを想う。</p>
<p>19日 (金) 創世記 26章</p>	<p>「イサクはその井戸をレホボト(広い場所)と名付け、『今や、主は我々の繁栄のために広い場所をお与えになった』と言った」(22節)。遊牧生活は周辺住民との摩擦、飢饉や井戸の問題に悩まされる連続であり、イサクは日々心折れそうになったことだろう。それぞれの場所に名前を付けては、主の約束を握りしめるようにして祈ったイサクの信仰を想う。</p>
<p>20日 (土) 創世記 27章</p>	<p>「エサウは父に叫んだ。『わたしのお父さん、祝福はたった一つしかないのですか。わたしも、このわたしも祝福してください』」(38節)。なぜヤコブが選ばれ、エサウが退けられるのか、私たちにはさっぱり理解できない。しかし主はリベカの策略を用いて、ひ弱いヤコブを立てられ、その旅を導き、ヤコブの信仰を鍛え育んでいかれる。主の計画がここにある。</p>
<p>21日 (日) 創世記 28章</p>	<p>「ヤコブは眠りから覚めて言った。『まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった』」(16節)。主はいつもわたしたち一人ひとりの傍らにたたずみ、常に共に歩んでくださっている。そのことを知っているわたしたちだが、その伴いに気づくのは、なんと難しいことだろうか。</p>